

『笑顔いっぱい あたたかさあふれる 入新井第一小』を実現する学校経営方針

「笑顔いっぱい あたたかさあふれる 入新井第一小」の学校づくりの実現に向けて、学校としての**中期目標（令和10年度まで）**と**短期目標（令和8年度）**を以下のとおり設定する。目標の実現に向けて、個々の経験や専門性を生かし、組織が一体となって本校の児童の育成に努める。



教育目標「自主・自律 健康な心身で 協働する子」の育成に向けて 中期目標（令和8年度～令和10年度まで）

◆ 1 こどもの笑顔があふれる学校

○人権尊重の理念に基づいた指導の徹底

東京都人権施策推進指針に基づきあらゆる偏見や差別をなくす人権教育の徹底を図り、全教育活動において道徳教育を中心とした人権教育を推進する。

○いじめをしない、させない、許さない

児童が主体的に自他の生命を尊重し、身近な問題として起こり得るいじめの問題については、「しない」「させない」「許さない」**徹底した**態度を育む。

○「好き」を育み、「得意」を伸ばす

誰一人取り残すことなく一人一人の可能性を見出し、「好き」や「得意」を見つけさせ、自ら伸ばしていこうとする意欲を育む教育を推進する。

○仲間と協働的に学べるよさが実感できる

学校での大集団・小集団でしか体験できない学び、協働的な学びの時間を充実させ、**AI時代に義務教育段階で身に付けるべき「読む・書く・考える」の基礎・基本の徹底**とともに課題解決力を重視する。

○こどもがあたたかさを感じる居場所づくり

「学校・学級、特別教室、校内のどこにいても安心してあたたかさを感じながら充実した時間を過ごせる場所」こどもにそう実感してもらえる環境づくりをする。

教室に居づらいこどもの居場所づくり（校内ステップ・ルーム）の設置を継続し、不登校児童の未然防止を行う。

◆ 2 保護者・地域の笑顔につながる学校

○安心して子どもを通わせることができる

「学びが充実している」「毎日学校に行くのが楽しいと言っている」「学校での子供の成長がよくわかる」等保護者や地域に安心して任せられるよう適切な情報発信や情報交換を ICT 機器等も積極的に活用して行う。

○こどもの笑顔のために共に考える

一人一人の発達段階や成長は異なることから、こどもの状況に丁寧によりそった相談体制を充実させるとともに学校と家庭・地域がこどものよりよい成長のためにできることを協働的に考える関係づくりを大切にする。

○保護者・地域とともに学校をつくる学校運営

開校 150 周年で再確認した地域とのつながりを起点に、令和 8 年 4 月より学校運営協議会を発足し、コミュニティ・スクールとして保護者、地域と連携し、新しい未来につながる協働的な学校運営を行う。

○子どもを見守り、地域活動の拠点としての機能

地震・風水害等の自然災害や感染症対策，食物アレルギーへの対応や事件・事故等様々な危機管理から子どもを守る安全教育の徹底と複合施設としての機能を生かし，地域活動の拠点として関係機関との連携を重視する。

◆ 3 教職員に笑顔をもたらす学校

○自己の専門性が生かせる体制と充実した働き方

教職員個々の専門性や得意分野を生かした校務分掌を推進することにより、校務の効率化と担当業務量のより一層の平均化を図り、充実した教育活動が行えるようにする。教職員も自己の健康管理を徹底し，職務に専念できる良好な環境と組織体制を作る。また、文科省教育課程柔軟化サキドリ研究校、大田区研究推進校 1 年目（連続 3 年目）、理科教育拠点校等、研究・研修活動を重視し、指導技術の向上と他校へ広げ深めていく研究を推進していく。

○教職員一人一人の強みが生かされ，組織横断的に課題解決にあたり、将来にわたっても持続可能なチーム力を構築する。



教育目標「自主・自律 健康な心身で協働する子」の育成に向けて 短期目標（令和8年度）

1 教職員のキャリアアップ・人材育成の視点

(1) 学習指導

○学習指導要領に則り、児童の主体的・対話的で深い学びにつながる授業の充実と個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、一人一人の目標に準じた意欲もてる指導と評価を行う。

○AI時代において初等教育で身に付けておくべき「よむ・書く・考える」などの基礎・基本の徹底について、一人一台端末を効果的に活用するなどし、協働的に問題を解決する能力と自律的に学ぶ力の育成を図る。

(2) 生活指導

○すべての児童があたりかたさを感じ安心・安全に過ごせるような環境美化の徹底を図る。また、集団生活における規律が保たれる指導を徹底する。発達段階や個の状況に配慮が必要な児童、特別な支援が必要な児童への理解と指導方法の理解を深め、適切な生活指導が行えるようにする。

○人とかかわりの中で挨拶等基本的な生活習慣を徹底するとともに、発達段階に応じて自己指導力や自尊感情・自己肯定感を高める指導を充実する。

(3) 外部との連携・折衝

○保護者の立場に立ってこどもの成長の様子を適切に情報提供したり、大田区の特色ある教科「おおたの未来づくり」のカリキュラムの一層の定着と推進を行ったりする。地域の事業者や施設、人材等を全学年で地域コーディネーターを積極的に活用し、社会に開かれた教育課程の充実を行う。

○教育委員会や区の関係機関との連携を密接に行う。

(4) 学校組織として

○管理職、教員、事務職員、栄養士、スクールカウンセラーなど職及び職層に応じた責任ある職務の遂行と持続可能な適材適所の分掌を任せる。

2 学校での取組の視点

(1) 学習指導

- 一人一台タブレット端末等 ICT を効果的に活用することを必須とし、AI時代にふさわしい多様性と調和を重視した協働的な学びと個別最適で自律的な学びの充実を図り、課題解決力を伸ばす。
- 一人一人の学ぶ意欲や学んだことを生活（社会）に生かせる力を伸ばすとともに、AI時代を生き抜く個の特性に合わせた新たなカリキュラムの開発と自由進捗学習等の手法や考え方も取り入れたこども主体のカリキュラム・マネジメントの推進をより一層図っていく。

(2) 生活指導

- 自立を育む学校生活のルールを徹底し、だれもが安心してあたたかさを感じる学校生活が送れるよう丁寧な指導を行う。
- 学校として発達段階に応じた学習・生活規律の一貫性をもたせた生活指導（「入っ子スタンダード」）を学年共同で行う。特に、基本的な生活習慣の中でも挨拶や身の回りの整理・整頓、清掃活動等毎日の学校生活で継続的に行う取組の全校での凡事徹底を行う。
- SC、SSW、警察、区役所等関係機関と連携した課題解決と組織力の向上を図る。

(3) 外部との連携・折衝

- 学習指導要領と関連した教育活動の取組にあたって、児童の豊かな心の育成につながる体験的な活動の充実や教科「おおたの未来づくり」の実施と関連させた地域資源（人・もの・環境）を活用した教育カリキュラムに継続して取り組み、児童一人一人にとって魅力ある学習活動を展開する。

(4) 学校運営として

- 児童が150周年でのつながりをレガシーとして主体的に取り組める企画や提案、各分掌での新しい取組等前例踏襲によらない取組にチャレンジし推進する。
- 自己の専門性や得意分野を生かし、学年または学年を超えて教科担任制の取組や研究を中心にOJT研修等を通して組織力の向上を図る。
- 令和8年8月に完成する校庭をもってすべての改築工事が完了するため、地域のランドマークとして校舎・校庭・複合施設が一体となった活動を推進する。

3 家庭・地域の視点

- 開校 150 周年で得られた郷土愛、愛校心などをレガシーとして次につなげる行事等（校庭完成記念スポーツフェスタなど）を実施する。
- 卒業生、保護者、学校、複合施設に入る関係団体がつながる拠点としての学校の役割を明確にし、双方が連携した活動ができるよう令和 8 年度からコミュニティ・スクールの運営を行う。
- 家庭や地域の願いを学校運営に反映するとともに、新校庭と校舎の施設を活用して地域と学校が協働的な取組ができるよう推進する。
- 時世に合わせた取り組んで笑顔になる PTA 活動に対する協力や助言を学校としても大切にする。

4 大田区の教育方針につながる取組

- コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力など未来社会を創造的に生きるこどもの育成に向けて、学校の特色や地域性を生かした取り組みを充実させていく。特に学習指導要領の目指す情報活用能力の育成や教科 おおたの未来づくりの取組、さらには AI 時代に合わせた取り組みなど新たなテーマ性のある研究・研修を充実させる。
- AI 化が進む中であって、ますます豊かな人間性や人間力として魅力ある人材、人間にしかできない創造性等の育成が求められる。学校と家庭・地域が一体となって情報モラル教育やいじめ問題を軽視しない態度や命の教育、心の育成につながるよう道徳教育の充実を引き続き図っていく。
- AI 時代の持続可能な社会づくりにおいて環境教育等科学的な見方・考え方を深めるための理科教育の充実につながるよう理科教育推進拠点校として理科指導専門員を生かした研修を行う。
- 移転前は極小校庭でありながら工夫した取組により、令和 3 年度は東京都「子供の体力向上推進優秀校」に表彰、令和 5 年度には大田区立小学校駅伝大会において区内総合 4 位、令和 6 年度は午後の部で 5 位、令和 7 年度は午前の部で 3 位と大変優秀な成績をおさめ続けている。今年 8 月までは屋上以外は校庭が全くないため、本年度も発達期にある児童が健やかに成長できるよう基本的な運動習慣の定着や身体を十分に動かす楽しみを味わえるような近隣地域や校舎内施設等を生かした運動の機会と場の確保を行う。また、成果をあげている区で開催の小学校駅伝大会の結果をもとに運動することへの期待感や目標を明確に持たせ、スポーツの機会をきっかけとして、自信ややる気の向上、心身の安定につながるようにする。
- こどもが主役の地域活動やイベントにはこどもの意見をききながら積極的に参加したこどもの意向にそえるよう学校も協力する。